

平成28年度 特別講座 [古典絵画]

受講生作品発表展示

2017年5月9日(火)～5月23日(火)

中部大学民族資料博物館 多目的室
(附属三浦記念図書館2階) ※最終日は専講師による講評会



中部大学民族資料博物館蔵 右:《西安追想～平福への巡幸》
左:《天人と菩薩》 パールマン有栖寺障壁画一部想定現況模写

中部大学民族資料博物館企画 特別講座〔古典絵画〕について

特別講座(古典絵画)は、大学博物館で「博物館相当施設」指定を受けた中部大学民族資料博物館が、一般対象の生涯学習プログラムの一環として、「素材研究」を学習テーマの一つに掲げて教育普及活動を提案するものです。年間を通して連続計26回におよぶ日本画の作品制作の実技体験を通じて、伝統文化の素材や技法を体験し、理解を深めることを目標にしています。

日本画の制作は、伝統的な材料、すなわち顔料や染料の他、和紙や墨、胡粉、膠、箔等の特有な扱いを必要とするものなので、作品としての完成度に到達するまでの道程は決して容易ではありません。そのため、本講座の指導講師は、現代日本画家としての制作者の観点と、また文化財保存研究、古典絵画の技法研究の複数の観点を惜しげなく伝えるよう努め、実際に描いて手本を示しながら、日本画の彩色や空間表現の奥深さを、五感のすべ

てを用いて感受するように伝授する姿勢で対峙しています。

そうした工夫に受講生は応え、講座の開講年を重ねるごとに熱意が途絶えることなく続いていき、なかには地域の公募展へ出品し入賞、入選を果たす人も出てきました。大学の専門分野の研究の一端に触れながら、継続して「ものを創造する」という、本講座における体験が、地域の人びとの「知」への関心の高まりにつながる機会となっていることを示す意味で、博物館活動においても励みとなっています。

このたびの展示では、平成28年度を受講生たちの制作に向けた真摯な姿がかたちとなりました作品を一堂に介し、成果をご披露いたします。ぜひご高覧ください。

